

S 3 8 電通卒 同期会を開催しました

平成 30 年 12 月 5 日、皇居乾通りの開放（紅葉）に合わせて「江戸城無血開城と上野戦争」をテーマに散策を兼ねた同期会を開催しました。皇居乾通りの紅葉は、昨日までの暖気のためか、葉先の縮れたものも多く観られて今一の景観でした。

坂下門を入場して皇居宮殿や宮内庁舎を左に見ながら乾門に向かって散策（そこで一枚パチリ）、途中を西桔橋（にしはねばし）から東御苑に渡り、天守台跡、本丸跡、二の丸跡などを巡りました。

江戸城無血開城は、唯一残っていた西の丸（現皇居宮殿の地）が新政府軍に引き渡されたが、大奥最後の主人であった天璋院（篤姫）や和宮は、決死の覚悟で徳川宗家を守り、500 名ほどの奥女中達の引越先や就職先を決めて、最後には綺麗に大清掃して装飾のうえ西の丸大奥を出たそうです。

旧江戸城での歴史ポイントを巡ったあと、和田倉門噴水レストランのビュッフェにて癒し充電をしてから、午後の部の上野戦争の史跡を巡ることにしました。



京都鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争の初戦）途中で江戸に敗走した 15 代将軍徳川慶喜（上野寛永寺に謹慎）を擁立して徹底抗戦しようと上野山に集まった士族たち（彰義隊）と、西郷隆盛や板垣退助らの新政府軍が戦ったのが上野戦争（1868 年 5 月 15 日）である。西郷隆盛が率いる正面隊は上野松坂屋の二階に布陣して、黒門前の三橋を挟んで攻防が始まったが、兵力や武器に優れる新政府軍には叶わず僅か半日で決着が着いたそうです。

谷中も含めて上野山全体が徳川の霊廟であったので、寛永寺には御門や根本中堂、御堂、御坊など沢山の伽藍が建っていたが、この戦争で殆どが焼失してしまいました。

黒門跡、彰義隊の墓、上野清水堂、慶喜謹慎の部屋、銃弾・砲弾痕の残る門扉、将軍や篤姫が眠る霊廟、慶喜の墓などの史跡がありますが、参加メンバーの体力に相談をして後半をパス、次の円通寺、小塚原回向院に向かいました。



上野戦争で彰義隊の戦死者はそのまま野ざらし（新政府の命令）にされていたのを見兼ねて、円通寺住職らが処罰を覚悟のうえ遺骸を片付け始めて、新政府に円通寺にのみ埋葬を認めさせた。その縁で当時の寛永寺黒門が戦争史跡として円通寺に移設されています。また会津戦争や函館五稜郭など、戊辰戦争で亡くなった旧幕府軍の人たちの供養碑（死節の墓）もありました。また円通寺は、昭和 38 年に起きた吉展ちゃん事件の発見現場でもあったとは驚きです。

待たせてあったタクシーを乗り継いで南千住駅隣の小塚原回向院へ、ここは江戸時代の三刑場の一つ小塚原刑場があった所で、閉鎖されるまでに約二十万人が処刑されたと云われています。

南千住周辺で駅の建設や再開発の時には、毎々日、人骨が出て来てその都度供養して作業を進めたそうです。回向院には幕末に起きた安政の大獄や桜田門外の変などで大罪となった思想家や急進派の志士たちの墓もありました。また、オランダの医学書を基に、杉田玄白ら医師たちがこの地で罪人遺体の腑分けで検証して、詳細な「解体新書」に翻訳して発行したことから、日本中の医師に人体の構造が伝わりました。

さて、そんな勉強をした散策も 14000 歩に、これ以上移動するのがしんどくなり、南千住駅前の居酒屋に開店前から入り込んで懇親会にしました。昔の仲間達や田舎話で盛り上がり、あっと云う間の二時間半でした。今回は大神田君と後藤さんが体調不安で欠席、来年は後期高齢になるので‘ゆる〜い集まり’にとの意見がありました。

{記：櫻井武春}

